

宇都宮城跡
池再生委
蓮

ハスの種12個発掘

江戸期の美再現へ一歩

宇都宮城(宇都宮市本丸町)の東側にあったハス池跡からハスの種を探し出そうと、市民団体「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」は五日、城址公園東の駐車場で発掘調査を行い、ハスの種十二個を発見した。江戸の人々がめでた花の文化を現代によみがえらせようというハス池再生の夢に一步近づき、関係者らは思わず歓声を上げた。

発掘調査は、同検討委員会が、宇都宮建設業青年の会、東電宇都宮支社などの協力で実施。神事後、電柱を設置する際に使う建柱車一台を投入した。昨年三月、宇都宮大の松居誠一郎教授(五〇)らが行った地質調査で花粉が確認された地点で、深さ一・七二・七メートルに堆積した池底の泥をドリルで掘り上げた。泥の中から同会メンバーや宇都宮大生ら約三十人が手作業で種を探し出した。ハス池は本丸東側をコの字に囲むようにあったとされる。掘削は当初十五方所程度を予定したが、初めから種を探し出せたため作業は四力所にとどめた。作業を見守っていた関係者や見物客らは、念願の種の出土に「ハス池再生への第一歩」と感激していた。松居教授は「たくさん掘らなければ出てこないと思



っていたので、大当たり。今度は発芽を祈るばかりです」とうれしそうに話した。同検討委員会は今後、年代を特定するなど江戸期の花の開花につ

向けて育成栽培する。泥の分析も同大農学部などの協力を得て行

い、ハス池の環境を明らかにする。

(石川文子)



発掘されたハスの種。長さは15ミリほどだ(写真上)。掘削した土の中から種を探す同会メンバーや宇都宮大生ら参加者(同右) 115日午前、宇都宮市本丸町

栃 木

400年の時を経て

ハス池跡地から種を発掘

宇都宮城のハス池の復元を構想している市民グループ「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」は五日、宇都宮市本丸のハス池跡地の発掘調査で地下約二・五メートルの土の中からハスの種十二個を発見した。同委員会では「採取した種を育成栽培し、来年夏には花を咲かせたい」と、四百年前のハス再現というロマンに挑む。



ハス池跡地の土から見つかった種を持つ発掘参加の児童―宇都宮市で

宇都宮跡 開花再現へ育成栽培

同委員会は二〇〇六年に設立。〇七年には宇都宮大などの合同調査でハス池跡地からハスの花粉を検出したことから今回の発掘調査に踏み切った。

調査は同委員会が中心となり、宇都宮大の学生、周辺小学校の児童や東京電力など約五十人が参加、宇都宮城址公園近くの民有地で地権者の了解を得て実施した。電柱の新設につかう建柱車で、掘り出した土をビニールシートや合板の上に広げ種を見つけ出した。

種は宇都宮大の温室で育成栽培し、〇九年夏には開花させ、一〇年春にはハス池をつくる計画。同委員会の印南洋造事務所長は「世界最古の花・大賀ハスの種は三個だったが、こちらは十二個。どのようなハスの花が咲くか楽しみ」と話している。

江戸時代のハスの種？

宇都宮城跡ボーリング調査

江戸時代に宇都宮城を彩った「ハス池」を復活させようと活動している市民団体「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」は5日、当時のハスの種を求めて、

宇都宮市の宇都宮城跡近くでボーリング調査を行った。調査には約50人が参加。ハス池があったと推定されている同市本丸町にあ



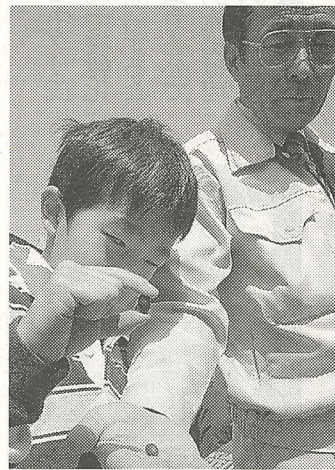
掘り返した土砂の中から、丁寧に発掘した(5日、宇都宮市本丸町で)

る駐車場の地下2・5メートルから約2メートルの土砂を掘り返し、手作業で丁寧に調べた。同委員会事務局によると、直径1、2センチのハスの種計12個を発見した。参加した宇都宮大学教育学部の伊藤悠大郎さん(20)は、「江戸時代のものだったらと思うと、ロマンを感じますね」と興味深そうだった。

同会の印南洋造事務局長(58)は「予想以上の数が出てうれしい。種の時期などを調べ、花を咲かせたい」と話していた。

あった! 昔の種

宇都宮城ハス池跡で12個



宇都宮城(宇都宮市本丸町)にあったとされるハス池の再生を目指す市民グループが5日、ハス池跡地のボーリング調査を行い、ハスとみられる12個の古い種子を発見した。見つけた種子は宇都宮大学の協力を得て栽培するとい

う。「夏ごろには花を咲かせたい」と期待を膨らませる。調査したのは、同市の市民グループ「宇都宮城跡蓮池再生検討委員会」。電柱の新設に使う建柱車を東京電力から借りて午前9時ごろから掘削を始めると、参加者約50人は

見つかった種を持つ参加者たち
宇都宮市本丸町

掘り出した土を平らにして、手作業で種子を探した。

同会によると、今回は地下2・5メートルほどの土を調べた。地層は江戸時代から明治時代にかけてのものとみられ、見つけた種子の年代の調査も検討しているという。

種子が見つかるたびに歓声が上がリ、種子を見つけた同市内の小学4年の渡辺豊さん(9)は「宝探しみたいで楽しかった。どんな花が咲くか楽しみ」と満足そうだった。

<第三種郵便物認可>

「蓮池」言い伝え本当だった！

江戸時代、宇都宮城にあったとされる蓮池の再生を目指している宇都宮城跡蓮池再生検討委員会（石川速夫会長）は5日、蓮池跡とみられる宇都宮市本丸町で掘削調査を行い、蓮の実12個を発見、言い伝えが事実だったことが証明された。

同会では見つかった蓮の実を宇都宮大学で育ててもらい、江戸期の人



掘削した地中から見つかった蓮の実

|| 宇都宮市本丸町

宇都宮城 跡地から「実」12個を発見

々が愛でた蓮の花を現代によみがえらせた。早ければ、7月にも花を咲かせることができそうだという。

これまで、同会が昨年3月に行ったボーリング調査で、地下1・7～2・7メートルの場所に池の泥が堆積していることが判明。さらに、泥の中から蓮の花粉が見つかったため、蓮の実の発見が期待されていた。

この日は会員約50人が出て、上蓮池跡にある宇都宮城址公園の東側、市立旭中学校の南西側の民間駐車場に4カ所を掘削。地表から約2・5メートルの地中から、蓮の実が出土した。

同会の印南洋造事務局長は、「予想はしていたが、やはりうれしい。今度は花を咲かせ、後世に残し、蓮池の再生につなげたい」と話した。